

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字 NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

FEBRUARY 2022 NO.981

令和4年2月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第981号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

2



わたしも赤十字

寄付の協力者

おざわしろう
小澤四郎さん(新潟県新潟市 / 99歳)【P.4でご紹介】

特集

持っていますか？

不安を和らげる「心のゆとり」

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

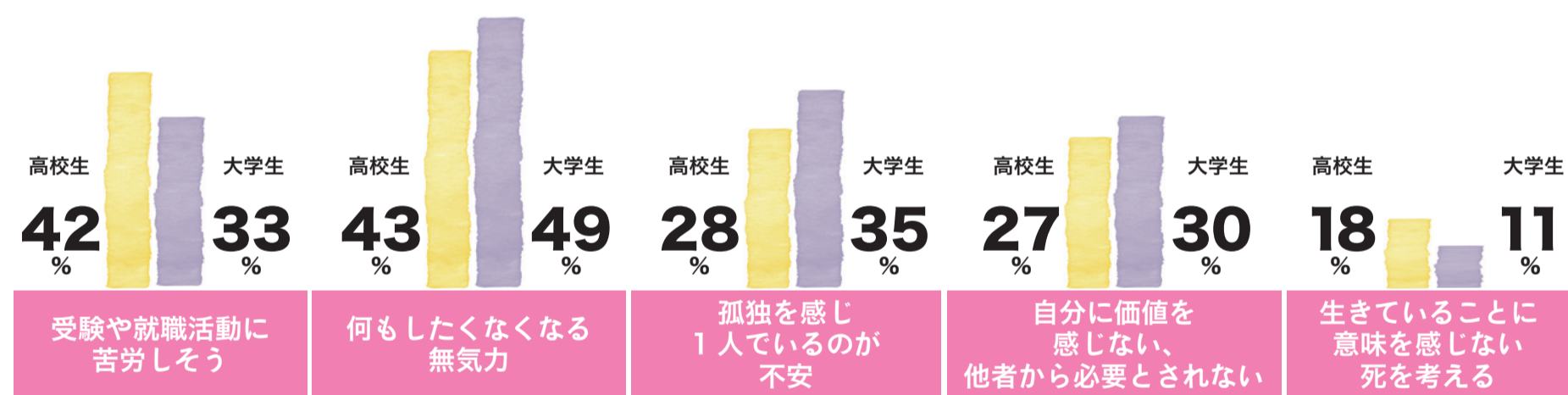
 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

\持っていますか? 不安を和らげる 「心のゆとり」

独自調査で見えてきた「コロナ禍の心のゆらぎ」

新型コロナウイルスの初の感染者が国内で確認されてからほぼ2年が経過した昨年12月、日本赤十字社では全国の高校生、大学生・大学院生、およびその保護者、各100人を対象に「コロナ禍がもたらした心の変化」を独自調査しました。調査で明らかになったのは、コロナ禍において半数もの若者が「無気力感」に陥っていたこと。中には「孤独」を感じ、精神的に追い込まれた若者も存在していました。ところがそうした不安については保護者にほとんど相談されていない実態も浮かび上がりました。心の変化をキャッチするのが難しいこの世代に、大人たちはどのように寄り添っていけばよいのでしょうか。そして、大人たち自身も、このコロナ禍のストレスをどう乗り越えていけばよいのでしょうか。心のケアの専門家がアドバイスします。

学生へのアンケート結果



保護者へのアンケート結果



不安を抱える若者たち…大人の認識との乖離が浮き彫りに!



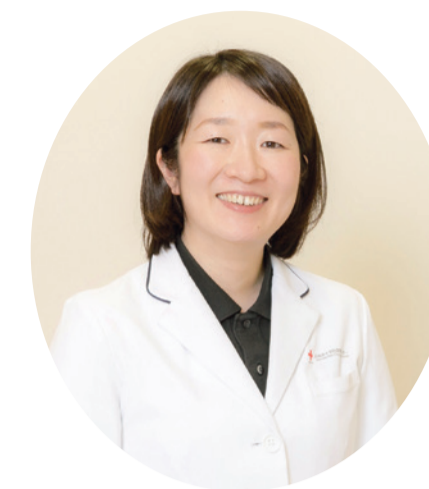
専門家からのアドバイス

セルフケアで不安を和らげ心を軽やかに

今回の調査対象である高校生・大学生は進学や就職といった大切なライフイベントを間近に控えた、平常時であっても将来への不安を抱えやすい世代です。そんな時期に先の見通せない災害(コロナ禍)に見舞われて、頑張ろうとする気力が湧かない(無気力)のは自然な反応だと言えます。今は大人の中にも、強いストレスを抱えている方も数多くいます。

しかし、このような心理状態は決して見過ごしてよいものではなく、もしも明らかにストレスを抱えている方が周囲にいたら、声を掛けてみてください。赤十字も災害時に「PFA:サイコロジカル・ファーストエイド」という心の応急処置を実施しますが、このPFAの基本は「見る・聞く・つなぐ」です。まずその人の様子や状況を「見る」、どうしたの?と「聞く」、本人の気持ちと和らぐような手段に「つなぐ」。この「つなぐ」は、近くでカウンセリングを受けられる場所があったら、そういう相談窓口につなぐ、ということも当てはまります。

ここで心掛けておきたいのは、決して押しつけ(強要)にならないようにすることです。思春期の子は特にそうですが、「頼りたくない」「弱いところを見せたくない」という気持ちが強く、拒絶されることもあります。詮索するのではなく、いつでも相談相手になるという態度を示すこと。信頼



日本赤十字社医療センター 臨床心理士
秋山恵子



日本赤十字社医療センター 臨床心理士
関真由美

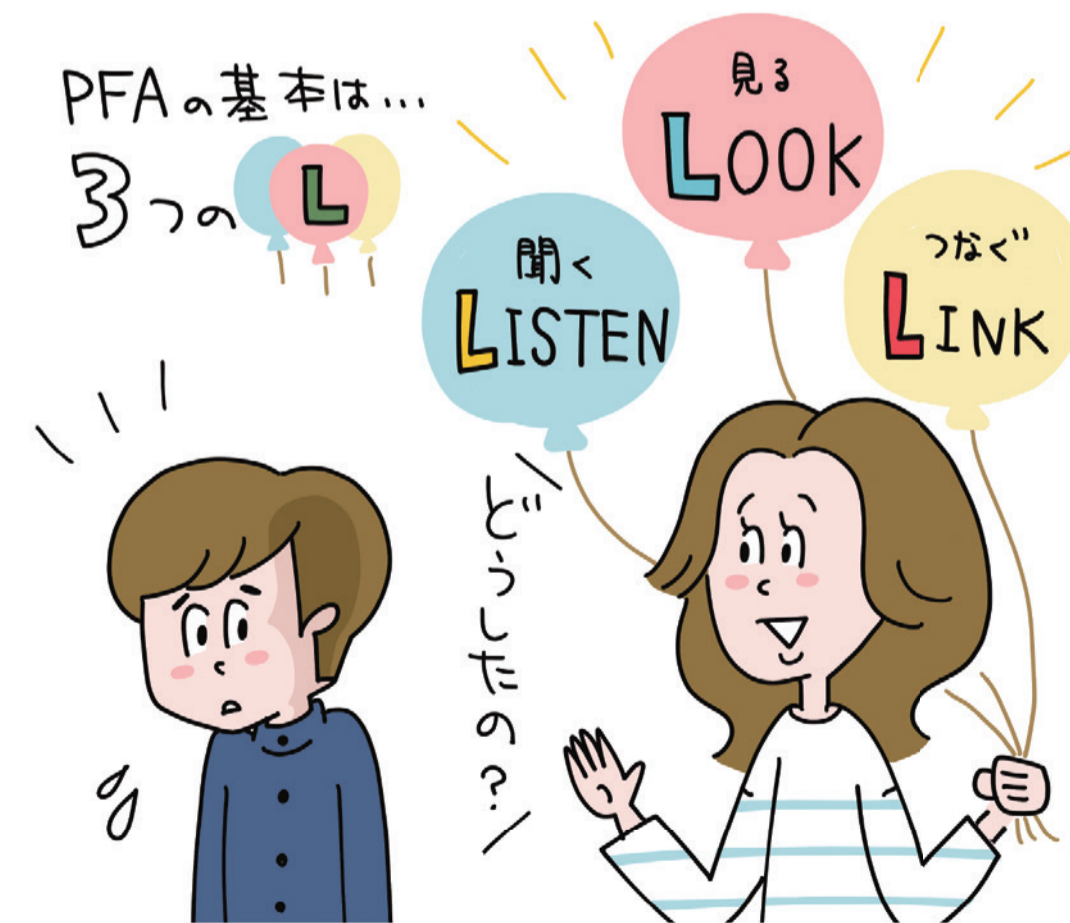
できる「安全地帯」になって、自然と相談しやすい空気をつくっていただきたいのです。「ちょっとお茶しない?」など、気分転換できることに誘うのもいいですね。

不安やイライラなどの心のゆらぎは、本人が気づけていないことがあります。いつもと様子が違う、など周囲の人が気づけることが大切です。そして、この「気づく」は自分自身のストレスに対しても、同じことが言えます。強いストレスを感じるなどつらい状況にあるとき、心を回復させるためには、セルフケアが欠かせません。私たちが提案したいのが、「心の処方箋箱」を作ることです。その方法はこうです。自分がこれをやると気分が良くなる、リラックスできる、という内容を短冊に書きます。たとえば「ちょっぴり高級なアイスを食べる」「飼い猫のおなかに顔を埋める」など、自分が癒やされることをどんどん短冊に書いて、箱に入れておきます。

そして心のモヤモヤや落ち込みに気づいたら、「心の処方箋箱」からくじ引きのように短冊を引き、そこに書かれていることを実践します。その後も気分が良くなることを見つけたら、短冊を増やしていき、「心の処方箋箱」をアップデートしていきましょう。短冊の数は多ければ多いほどいいです。

「心の処方箋箱」の目的は、心のゆとりを取り戻すことにあります。心にゆとりがなくなると、イライラを周囲にぶつけてしまいがちです。そしてそのイライラは誰かのイライラを呼びます。このコロナ禍のような災害発生時は「イライラの連鎖」が生じやすい状況です。だからこそ今は一人一人がしっかりとセルフケアをして、心のゆとりを保っておくことが大切です。こうしたことが社会全体の「自ら立ち上がる回復力(=レジリエンス)」を高めることにつながると考えています。

一人のゆとりが誰かのゆとりを呼んで、周囲へと社会へと広がっていく。そんな「ゆとりの連鎖」の1つ目の鎖に、これを読んでいるあなたになっていただけたら、こんなにうれしいことはありません。



大切なのは「心のゆとり」。「ゆとりの連鎖」を広げていこう!



TOPICS

昨年の防災・減災Twitter キャンペーンに、大反響

「あなたの備え」が、みんなの備えに！

ペット



灯り



昨年3月の「ACTION！防災・減災」プロジェクトで行ったTwitterキャンペーンには、たくさんの投稿が集まりました！中でも、すぐにまねしたくなる“お役立ちアイデア”の投稿を、ほんの一部ですがご紹介します。

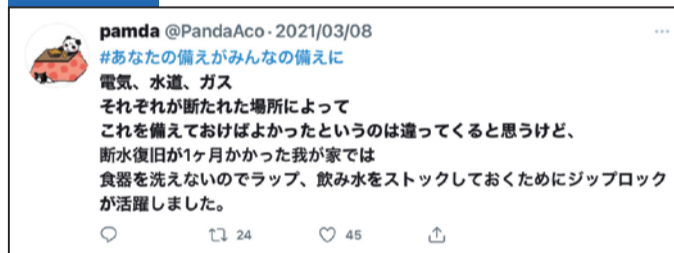
昨年3月に実施したTwitterキャンペーン「#あなたの備えがみんなの備えに」では25万8491件ものツイート&リツイートがありました。コロナ禍の避難として、マスクや消毒液、体温計、除菌ウエットシートなどの感染予防対策の備えのほか、大切なペットの避難に関するものなどのアイデアが数多く寄せられました。

災害発生時、水や電気などのライフラインが止まったらどうするか？避難所に持って行くべきものは？備えの意識も物も、常にアップデートすることが大切です。今年の3月も、同キャンペーンの第二弾の実施が予定されています。ご期待ください。(詳細は次号でご案内予定です)

感染対策



断水対策



防災・減災プロジェクト



今年も3月に実施します！
Twitter キャンペーン
「#あなたの備えがみんなの備えに」
より多くの方のご協力をお願い致します。

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介します。

妻との約束。「貧者の一灯」で100歳になっても寄付を届けます



寄付の協力者
おざわしろう
小澤四郎さん
新潟県新潟市/99歳

定年まで国鉄(現JR)で働いたあと、町内会長や老人クラブの会長などを16年務め、地域のために忙しく仕事をしてきました。地域の役職は、民生委員と悪事以外は全部やると笑い話にしているくらいです(笑)。結婚してすぐ、1960年に家を建てて、半世紀以上この地に住んでいます。妻が亡くなった後、わずかな額ですが残ったお金を日赤新潟県支部へ寄付をしに行きました。妻の遺言です。社会に役立つ形でお金を使ってほしいと。私は赤十字奉仕団の分団長を長く務めていたこともあって日赤とはご縁がありましたので、それならば日赤に寄付するのが一番良いだろうと考えたのです。

「貧者の一灯※」という言葉があります。妻が常々その言葉を口にしていました。金額の大小ではなく、たとえ10円であっても、気持ちが込められたお金を出したいですね。

日課は新聞と読書。「赤十字NEWS」も楽しみに読んでいますが、海外の子どもが苦しむ姿などを

見ると、少しでも寄付を役立ててもらいたいという気持ちになります。最近、足が悪くなってからは外出をほとんどせず、買い物などはヘルパーさんと近くに住む娘に頼んでいます。しかし、新潟県支部に寄付するときだけは、タクシーに乗って自ら持参します。来月で100歳、これからも元気に寄付を続けていきたいです。

※「長者の万灯より貧者の一灯」：貧しい者の心のこもった寄進は、たとえそれがわずかであっても、金持ちの豪華な寄進に勝るといふ故事。

寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口



TOPICS

日赤若手職員・ボランティアが同世代に向けたメッセージ動画を公開 「第6波」を、一緒に乗り越えよう。

オミクロン株の流行により、国内では再び若年層を中心とした新型コロナウイルスの急速な感染拡大<第6波>が発生しています。長引くコロナ禍で、感染へのリスク、生活スタイルの大きな変化など、不安やストレス、人々の意識が他者へと向かいづらい状況が続く中、日赤は全国の支部・施設の若手職員やボランティアから同世代の若者に向けて、「一緒に乗り越えよう。また、笑顔になるために。」というメッセージと共に「コロナ禍で大切だと思うこと(大切にしてほしいこと)」を伝え、感染拡大を防ぐための啓発を行います。

「笑顔になるために。すべきこととは何か。」

再び、一人一人が「自分のできること」を考え、行動していく時が来ています。今回のメッセージが、より多くの人に届くようにYouTubeやTikTok、Web 広告を活用してメッセージ発信を展開します。



「命を救える人を一人でも増やしたい」 コロナ禍で救急法講習を続ける入社1年目の日赤職員



一緒に乗り越えよう。
また、笑顔になるために。



特設サイト、令和4年2月上旬、オープン予定

「命を救える人を一人でも増やしたい」とオンラインでも救急法講習を続ける新人職員。福祉の現場で利用者の笑顔が消えていくことに胸を痛める介護福祉士。大切な患者さんを救うために、日々、命と向き合っている看護師……日赤の職員・ボランティアの思いがこもったメッセージ、ぜひご覧ください。

動画はこちらからご覧いただけます
《URL》 <https://www.jrc.or.jp/lp/egaoninarutameni/>



東大月脳に
挑戦せよ!
知識を深める赤十字QUIZ
出題 東京大学クイズ研究会(TQC)
知ってるつもりでも、意外と知らない赤十字のこと。
東大クイズ研が手掛ける問題にあなたは正解できる!?

2月の出題テーマは「救急法」です。心肺蘇生の訓練は、救急法講習で学ぶ一次救命処置のひとつ。この訓練に欠かせない人形のモデルとなった少女には、あるエピソードがありました。彼女の姿をした人形は世界中で使用されています。



今月のクイズ

難易度：★★★



写真:レールダル メディカル ジャパン株式会社

現在、世界中で使用されている心肺蘇生訓練用の人形の顔は、ある少女がモデルになっています。そのモデルとは次のどれでしょう?

シレント
当時ヨーロッパ中で、この少女の謎を題材とした文学作品が作られました。

- 1 多くの兵士を救った新人看護師
- 2 名作映画の人気子役
- 3 川で亡くなった少女
- 4 アンリー・デュナン※の孫娘

※赤十字の創設者

答えはP.6へ

AREA NEWS

全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は行われています。

岐阜県 一つ一つ心を込めて 奉仕団員がお正月飾りを手作り

日赤岐阜県支部の神戸町赤十字奉仕団は12月8日、地域に暮らす高齢者に手作りのお正月飾りをお渡ししました。毎月実施している「ほのぼの訪問」(一人暮らしの高齢者訪問活動)の一環で、このお正月飾りは9人の奉仕団員が一つ一つ手作りのもの。お正月を前に飾り物を受け取った方々からは「玄関が明るくなってうれしい」といった喜びの声も聞かれました。



ホオズキ、羽子板、折り鶴などをあしらった完成品

東大脳に挑戦! クイズの答え

3 川で亡くなった少女

心肺蘇生訓練用人形のモデルは、19世紀にパリのセーヌ川で亡くなった少女です。遺体の表情を写し取った「デスマスク」の美しい微笑が話題を呼び、彼女の死は文学作品などになり、ヨーロッパ中に知られました。人形の開発者であるオスムンド・レーデルもこの事件に心を痛め、「同じような悲劇が起こらないように」という思いを込めて彼女の顔をモデルに採用しました。(出典: <https://laerdal.com/jp/learn/60-years-of-resusci-anne/>)

千葉県 長野県 小児病棟の子どもたちに、 クリスマスのワクワクを!

千葉県の成田赤十字病院では毎月開催の誕生日会と一緒にクリスマス会を実施。モミの木になった職員楽器演奏や、院長ふんするサンタクロースのプレゼント配布など病棟全体に笑顔が広がりました。また長野赤十字病院では青年赤十字奉仕団が真心をこめて80枚のクリスマスカードを作成、長野赤十字看護専門学校が選んだ絵本とセットで子どもたちにプレゼントされました。



皆が「患者さんにクリスマスの楽しい思い出を」と力を合わせた

岡山県 「健結御守」を献血協力者に けんけつちゃんも祈禱に参加

1月、岡山市内の献血ルームなどでは献血協力者にオリジナルの「お守り」が贈られました。これは日本三大稲荷の一つである岡山県の最上稲荷から寄贈されたもの。健康を結ぶ「健結御守」と名付けられたこのお守りは、献血に協力した人々の健康が祈願されています。昨年暮れ、おごそかに催された最上稲荷の祈禱には「けんけつちゃん」も参加、お守りに祈りを込めました。



コロナ禍で献血協力者が集まりにくい中、1500人に配布した

静岡県 京都府 富山県 『感染症から誰も取り残さない』をテーマに 「NHK海外たすけあい」募金キャンペーンを実施

12月1日～25日、日赤とNHKが毎年実施している募金キャンペーン「NHK海外たすけあい」が、全国各地で行われました。静岡県では静岡英和女学院高等学校の青少年赤十字(JRC)メンバーがプロバスケットボールの試合会場で、また、他校のJRC高校生メンバーは駅前などで募金活動を実施しました。京都府のJRCの高校生メンバーや赤十字ユースボランティアらは、元教員で構成される赤十字賛助奉仕団員や赤十字関係者と共に四条河原町で行き交う人々に募金を呼び掛けました。富山県ではクリスマススイブに富山聖マリア保育園の園児がNHK富山放送局を訪れ、「困っている人に使ってほしい」と募金しました。集められた募金は、世界の貧しい地域での感染対策をはじめ、災害や紛争、飢饉や病気などで苦しむ人々のために活用されます。



活動の意義を深く学び、試合コートで趣旨を説明



園児たちはクリスマスのコスチュームで募金した

大阪府 マジック、歌謡、漫談を披露! 芸能奉仕団が老人ホームで熱演

日赤大阪府支部の芸能奉仕団が12月9日、大阪府内の老人ホームを訪問しました。芸能奉仕団には演芸のプロとして活躍する団員が所属しており、毎年の恒例行事として府内の高齢者施設を訪問する活動を続けています。昨年度はコロナ禍の影響で実施できませんでしたが、2年ぶりの訪問となった今回はマジックや漫談、歌謡ショーなどで参加者を沸かせました。



参加者たちの熱気に包まれ、会場は大盛り上がり!

徳島県 思いを胸にたすきをつなぐ 「徳島駅伝」で救護支援

日赤徳島県支部は、1月4・5日に開催された新春恒例の「徳島駅伝」で救護支援を行いました。冬の風物詩でもあるこの大会は新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの開催となり、中学生から社会人までの16チームが164.3km、27区間のたすきをつなぎました。2日目は小雨が降る中でのスタートでしたが、幸いにも両日とも負傷者や急病者の発生はなく、大会は無事に終了しました。



「救護車が併走してくれると安心」と高校生ランナー

全国 全国の中高生がオンラインで意見交換 ～青少年赤十字創設100周年に向けて～

青少年赤十字(JRC)は、2022年に創設100周年を迎えるにあたり、昨年12月25・26日に「令和3年度青少年赤十字スタディー・プログラム」をオンラインで開催。北海道から沖縄まで中学生63人、高校生244人のJRCメンバーが参加し、リーダーの考え方、人道について学びを深めた他、100周年に向けて活動目標を話し合いました。生徒たちは活動目標を立てる前に赤十字の100年を振り返る講義を受け、講義を担当した花巻東高校の伊藤先生が「なぜ赤十字の思想が宗教や文化の違いを超えて世界中に広まり愛され続けているのか」という質問を投げかけると、生徒たちは「実績があり、自分たちを守ってくれる組織と認められている」「世界の平和や秩序を保つために必要」など、活発に意見を出し合いました。さらに、講師側から100周年のスローガン「未来のあなたへ、やさしさを。」を踏まえ100年後の世界がどうなしてほしいか、その理想に向けて何ができるかを考える課題が出されると、生徒たちはグループごとに活動目標を組み立てました。



【HR毎に話し合おう】

なぜ、赤十字の思想が、どの国にも、宗教や文化の違いを超えて、どの時代にも受け入れられ、世界中に広まり愛され続けているのだろう

(左下)「しっかりと活動目標を考えられ、自分に足りないことも気が付けた」と埼玉の生徒
(右下)伊藤先生の講義/開催後の参加者アンケートでは98.5%が「満足」という結果が得られた

常任理事会開催報告

令和4年1月21日、令和3年度第9回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会では付議事項はありませんでしたが、本社業務執行体制の見直しについて協議し、「令和3年度赤十字この1年」の短編動画(献血)、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応状況(医療事業)、予算の補正にかかる社長専決事項等の決定状況についてそれぞれ報告しました。

※オンラインによる開催となりました。

第99回代議員会開催公告

令和4年3月に新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」において開催予定であった第99回代議員会は、新型コロナウイルスの状況を見直し、開催中止となりました。そのため文書審議をもってこれに代えて下記の事項を付議いたします。

- 令和4年2月1日記
- 第1号議案 本社業務執行体制の見直し及び日本赤十字社定款の一部変更について
 - 第2号議案 役員を選出について
 - 第3号議案 令和4年度事業計画について
 - 第4号議案 令和4年度収支予算について

トンガ大洋州噴火津波 救援金



トンガの海底火山の噴火により、トンガでは甚大な被害が発生しています。日本赤十字社は2000万円の緊急支援を実施したほか、被災各地での人道支援のため海外救援金を募集しております。救援金は被災地の救援・復興のため、また、同様のリスクを抱える周辺国など大洋州島しょ国の災害対策・救援物資備蓄などに充てられます。

受付:2022年3月31日(木)まで

詳細は日赤のホームページをご確認ください。

2022年 トンガ 救援金 検索

ニッポンの赤十字ゆかりの地を巡る vol.11 少年赤十字団発祥の地碑 (滋賀県守山市)

赤十字名所紀行

「青少年赤十字創設100周年」発祥の地で受け継がれるJRC精神

1922年に産声を上げた青少年赤十字(Junior Red Cross, JRC)。この年、全国に先駆けて少年赤十字団を結成したのが、琵琶湖に面した守山市にある守山尋常高等小学校(現・守山市立守山小学校)です。JRC創設100周年を迎える現在、同校はJRC精神を基盤とした特色ある教育を実施しています。毎週金曜日にJRCタイムを設け、JRCの実践目標の一つである「奉仕」として「学校菜園で野菜を育てて収穫→近隣にお裾分け→喜ばれる体験」など、その教育は喜びを持ってボランティアに取り組み心を育てる、赤十字活動の土台とも言えるものです。

2004年7月、JRC発祥の歴史を後世に残そうとJR守山駅西口広場に「少年赤十字団発祥の地碑」が建立されました。「世界を抱く大空を見上げて明るい未来に思いを馳せ、人間尊重の精神を胸に、気づき、考え、実行する、心豊かでたくましい子どもの姿」をイメージしたこの碑のそばには、赤十字のシンボルツリーであるイトスギも植樹されています。顕彰碑にはJRCの実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」が刻まれています。

現在の守山小学校

高さ2.5メートルの御影石の碑は、元・守山小学校校長でもある彫刻家 西村玉充が制作

「赤十字を応援!」プレゼント パートナー企業紹介 vol.22 株式会社ジャスティス

海洋プラスチックゴミの削減にもつながるアルミ製ボトル飲料水を開発

清涼飲料水の企画・製造・販売を行う株式会社ジャスティスでは、環境に配慮し3R(リデュース、リユース、リサイクル)を意識した商品を提供しています。その1つが、リサイクル率97.9%※のアルミ製ボトルの商品です。海洋プラゴミを削減し、脱プラスチック社会の実現に貢献できるアルミ製ボトル飲料水を通して、サステナブルな購買行動を啓発しています。昨年秋には「これ以上海にごみを出さない」というムーブメントを起こすため、産官学民連携のプロジェクトにも参加しました。また同社は、これまでも有志の社員による呼び掛けで献血に協力するなど日赤との関係を築いてきたほか、日赤の行事にもアルミ製ボトル飲料水を無償提供しています。大雨災害の際は、被災地に飲料水3000本を届けたり、コロナ禍では医療従事者への感謝を込めて2万4000本の商品を寄付するなど、社会貢献の意識を持ちながら事業を展開しています。 ※アルミ缶リサイクル協会調べ(2019年度)

2021年11月、産官学民連携で国内外に発信する、海洋ゴミ削減啓発プロジェクトに参加

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 2月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥2月号に関するご意見・ご感想 ※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします。

郵送/〒105-8521 東京都港区大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 2月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードからご応募ください。2月28日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

こちらから応募できます

WORLD NEWS

アジアの自然災害と赤十字の対応

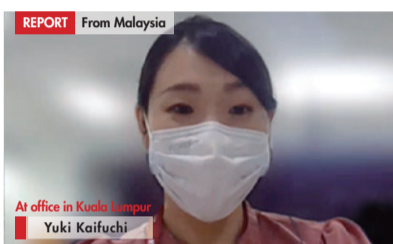


© IFRC

フィリピン南部を襲った巨大台風からわずか2週間後、フィリピン赤十字とIFRCの支援を受けて、住民は家と生計の立て直しを始めた。「赤十字の支援に感謝します。忍耐力を持って、私の家を再建することができます」

大規模自然災害に立ち向かう「予測的支援」

気候変動の影響によって大規模な自然災害が頻発する中、災害を予測することで失われる命を最小限にとどめる「予測的支援」の取り組みが進んでいます。マレーシアにある国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)のアジア大洋州地域事務所に出向中の日赤職員・貝淵友紀さんがレポートします。



REPORT From Malaysia

リポーター：
国際赤十字・
赤新月社連盟
アジア大洋州地域
事業調整官
貝淵友紀

年末も押し迫り、COVID-19の変異株による感染再拡大が世界中で起きていた時期に、アジアでは自然災害が同時多発的に起こり、多くの人々が避難生活を余儀なくされました。「12月16日にフィリピンを襲った台風22号は、年末にこれだけ大きな台風がこのエリアを直撃するのは珍しく、死者約400人、被災者800~900万人と甚大な被害をもたらしました。またインドネシアでは11~12月にかけて地震、ジャワ島の火山噴火、洪水と立て続けに災害に見舞われています」

ジャワ島の噴火は日本でも大きく報道されましたが、アジア各地では、マレーシアの豪雨、ミャンマーの地滑り、パプアニューギニアの津波など水に関連する災害が頻発していたのです。

「原因とされるのが地球温暖化に伴う気候変動です。2021年夏にIPCC(気候変動に関する政府間パネル)が『気温1°Cの上昇で1日当たりの極端な降水は約7%強まる』と報告しています。気温が高いと大気中の水蒸気が増え、そのぶん豪雨や台風などによる水害が

増えます。IFRCが確定した財政支援件数も、この10年は増加傾向にあります」

貝淵さんが所属する緊急支援調整チームは、現地とスイスのIFRC本部との連絡調整に、24時間体制で対応しています。災害発生時の緊急支援の一方で、IFRCでは事前に災害を予測し、被害や被災者を最小限にとどめる取り組みも進んでいます。

「IFRCのクライメイト(Climat:気候)センターは、気象学の科学者や、防災・環境・保健などの分野の専門家で構成される組織です。災害が予測されるエリアや時期、規模などの研究をし、各国の赤十字・赤新月社はIFRCの協力のもと、備蓄品の拡充や支援計画書の作成など、災害に備えた準備をします」

特にアジア大洋州地域は季節性の災害も多いため、「予測的支援」の効果が高いとのこと。

「実はフィリピンの台風災害時も、台風が直撃する前から現地赤十字が避難民の誘導や備蓄品の用意といった「予測的支援」を展開しています。また被災時には世界各国から100を超える支援団体が現地入りしたのですが、フィリピン赤十字社のリードのもと各団体・政府と的確に連携することができました。迅速かつ効果的な支援をする上で、現地に赤十字社がある強みを改めて感じましたね」

避難所では避難者だけでなくボランティアの安全を守るためにも、今なお脅威である

COVID-19の感染予防対策が欠かせませんが、それらの膨大な支援の調整に追われる中で、貝淵さんはあることに気づきました。

「他の赤十字社が手を挙げない支援にも、日本赤十字社は必ず動きます。見過ごされそうな地域の支援にも人員や活動資金を抛出したり。国際赤十字組織の側からみて誇らしく思いました。日赤がこのようなきめ細やかな活動を継続できているのは、政府などからの公的資金ではなく、みなさんのご寄付が活動の原資となっていることが大きな要因です。あらためて日本のみなさまに感謝の思いを抱いています」

現在、1月のトンガの火山噴火の支援にも奔走している貝淵さんの奮闘は今後も続きます。



© Indonesian Red Cross Society

ジャワ島の噴火後のインドネシア赤十字社の救急車と緊急チーム

赤十字、世界の「現場」から

supported by ICRC

赤十字国際委員会(ICRC)が展開する紛争地での保護活動や避難民支援。その活動現場で切り取られた、知られざる世界の姿、世界の課題。

2013年、マダガスカル刑務所。拘束された人々は過密で非衛生的な環境に置かれていた。ICRCは当局と対話を続け、被拘束者への栄養価の高い食事の提供や、衛生面での改善を実現。2019年に支援プログラムを完了し撤退した後、NGOなどにサポート業務を引き継いだ。

ICRCの収容所訪問はなぜ必要とされているの？



ICRCは世界各地で捕虜収容所や、刑務所などの矯正施設で拘束されている人々と面会し、人道的な処遇を受けているかをモニタリングしている。暑さ寒さをしのいでいるか、食事の内容(宗教的配慮、栄養)、運動時間など、人間らしい生活が送れるよう収容当局をサポートしている。

© ICRC

